



2020 コロナに始まり、コロナとともに2021へ・・・



2020年は東京オリ・パラが開催され、希望いっぱいの1年になると誰もが胸膨らませて迎えたはずでしたが、思いもよらない感染症と向き合いながらの1年となりました。2か月半を超える長い臨時休業は初めての経験でしたし、日常の一つ一つのことが当たり前「できる」ことのありがたさを痛感したことでした。

そういった中で、行事や活動が中止・延期になったり、授業などの内容や方法を変更せざるを得なかったことがたくさんあり、残念な思いもしましたが、感染症対策を徹底しなければならない制約の中でも「できない」とあきらめるだけではなく、「なんとかできる方法はないか」「これができないなら、できることは何か」など、保護者の方にもたくさんのご理解とご協力をいただきながら、考えに考えた一年でした。教職員が皆で、子どもたちにつけたい力の獲得に向けて、しっかりと確実に学びを重ねていくよう、限られた時間や条件を考えながら取り組んできたことで、子どもたちもそれぞれに成長を見せてくれていると思っています。

少し早いですが、今年の皆様のお気遣い、ご支援には心から感謝いたします。新型コロナウイルス感染症の状況は、大変心配な状況が続きますが、冬休みの間も感染症対策には十分気を付けていただき、皆がそろって3学期がスタートできますようよろしくお願いいたします。



冬休み中にも緊急のことは、各校の連絡体制により管理職等への連絡をよろしくお願いいたします。

リモートOO・・・を考える

新型コロナウイルス感染症の流行とともに実施されたステイホーム、そのために一気に取り入れられたのがリモートワーク、さらにはリモート飲み会、リモート里帰り、リモートOO、オンラインOO・・・学校ではリモートによる遠隔授業や交流学习、オンデマンド教材配信、教員もリモート会議にリモート研修等々。これまで顔を合わせ、膝を突き合わせる事が当たり前と思ってきたことも、「もしかしてリモートで十分じゃない？」ということも多くあったように思います。それぞれに長所短所はありますが、確実に移動時間や旅費の節約にはなっていますし、その分教材研究など授業の準備や自己研さんに取り組めたりしています。ただ、実際に経験したり、本物に触れたりすること、言葉を交わし合い微妙なニュアンスを感じ取ったりすることには不十分さもあり、活用の仕方には工夫も必要です。



若草でも教員の会議や、県外で行われる研修への参加や、県外の講師を依頼しての研修、他校との授業交流、離れた教室や病棟などをつないだ授業等々でリモートを活用することも増えてきました。また、筆記の代替、デジタル問題集、調べ学習、様々な視覚教材（動画やデジタル教材等の学習コンテンツ）の活用などが行われており、教科等の学習効果を高めたり、障害による学習や生活における困難の改善や克服のための有効な手段となっています。今後、学校には児童生徒用の一人一台パソコンも整備されることになっており、個々の実態に応じ、子どもたちにつけたい力をしっかりと踏まえた活用をしていきたいと考えています。

全国にもチャレンジしています！

「全国障害者スポーツ大会」には例年若草からも出場者がいましたが、中止となり残念・・・

でも、若草ではスポーツ以外でも全国にチャレンジしていますので紹介します。

○第27回全国特別支援学校文化祭【全国特別支援学校校長会・文化連盟主催】に応募

★子鹿園分校小学部3年生から書道の合同作品（3人が初めて取り組んだ書道の作品です。）

★本校高等部美術から写真2点（2名）

○未来を考えるコンテスト【全国肢体不自由教育校長会主催】高等部生徒によるプレゼンテーションコンテストです。本校高等部3年生の濱田さんが応募し、**中四国地区で17作品中2位**をいただきました。地元で自由に買い物ができるよう、素敵なアイデアを考えプレゼンしました。

4校スポーツ交流



○障害者スポーツ交流グループ（15m走、スラローム、ピンバック投げ）は、感染症の急速な拡大のため、本校に集合しての実施は中止としました。

→参加を予定していた本校と子鹿園分校（中高体育グループ）のそれぞれの体育の授業での練習の様子などを、動画にして交流することにしています。

○体操交流グループ

→各校で行っている体操を動画にして交流しました。子鹿体操やゆっくりラジオ体操など、それぞれでやってみたくなる体操でした。

○ポッチャミニゲーム交流

→テレビ会議システム zoom を使って4校をつなぎ8チームでミニポッチャの試合をしました。友達の投球に声援を送りあいながら楽しみました。またやりたいため！優勝は本校小学部レッドチームでした。